

## パタンランゲージ的手法を用いた名取市閑上地区の住民の記憶と継承

### 1. 研究の背景

2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震の発生により東北地方は甚大な被害を受けた。東日本大震災被災地では、それぞれ状況に応じた復興事業が行われている。被災地の復興事業は大きく移転復興と現地復興の2つに大別される。また、地域によっては復興計画に対する合意形成が難航し、事業が潤滑に進んでいない被災地もある。名取市の沿岸部に位置している閑上地区もそのような状況を経験している地区である。現地再建では、高台移転と比べ従前地区から大きく外れることなく再建を行うため、地域が長年培ってきたコミュニティや地域資源を残すといったことが行いやすいと思われる。試行錯誤のうえで、閑上地区では現地再建が行われている。しかし、震災直後に描いていた閑上らしさを残したいという思いなどが、果たして新しくできた閑上地区の街にどの程度継承されているか疑問である。

### 2. 研究の目的

震災から既に約6年半が経過した今、閑上の復興がどの程度住民の期待に沿って成し遂げられているのか検証を行う。また、新しい閑上地区の街の中でどのような活動(ハード面・ソフト面)をすれば、当時の空間的記憶を継承できるのか提案を行いたい。

### 3. 研究の位置づけ

研究の軸として、以下の3つが考えられる。

- 1) 閑上地区(の復興)に関する研究
- 2) まちの記憶、まちのイメージに関する研究
- 3) 復興における計画論的研究

### 4. 研究の方法

#### 4-1. 名取市閑上地区

#### 4-2. 本研究の方法

閑上地区に頻繁に訪れていた筆者自身が、被災以前の閑上地区を客観的な視点で整理する(ケヴィンリンチの手法:5つのエレメント)イメージマップの作成を行う。筆者により、閑上地区の空間に関するパターンを地域史料、復興資料等を参照して作成する。閑上地区に居住していた閑上地区の街の記憶に関するインタビュー調査を行う。

インタビュー調査では以下のような項目を予定している。

- どのような場所が心に残っていますか?
- 良く訪れた場所
- 好きな地区内活動

### 5. インタビュー調査の分析

どのような傾向があったのか?住民でなければ知り得ない閑上地区のイメージがでてくるか?住んでいた場所(住所)による違い、年代(年齢)による違い、性別による違い、居住歴による違いによる分析

結果を地図に整理

→存在している、再建済、消滅している等の情報

---

#### [連絡先]

東北大学大学院工学研究科

都市建築学専攻

修士課程2年

酒井 俊史

TEL 070-2011-4640

MAIL histum023@gmail.com